

オオルリシジミの継代飼育

3月11日の定期総会の後、安曇野市在住で、飯山産オオルリシジミの継代飼育による系統保存を行っている丸山潔さんに講演いただきました。

これまで、放蝶用の蛹も丸山さんから提供してもらっていますが、今後は地元の飯山でも継代飼育を行い、絶滅の危険分散など放蝶による保全に役立てられればということで市内会員の飼育実施を検討中です。

丸山さんは過去に安曇野市のオオルリシジミ保全にも関わられ、飼育個体から放蝶により復活させることができましたが、最初は継代飼育「成虫羽化～交配・採卵～幼虫飼育～蛹の保管」の過程に相当苦労されたようです。試行錯誤しながら、継代飼育の方法はほぼ確立され、現在は飯山産のみを飼育維持しています。

昨年の飼育は特に良好で、蛹が290ほど得られたので、今年、こちらでの飼育に使ってみたいとお願いし、継代飼育法を詳しく解説いただきました。その概略などを紹介します。



講演する丸山潔さん

1. 成虫の羽化

5月初旬～中旬頃、蛹から成虫を羽化させる準備をします。湿らせた赤玉土、ミズゴケが入った植木鉢に蛹を入れます。そこに数本の木の枝を挿し、挿した枝と鉢に隙間ができるようにふたをして、寒冷紗を張った羽化箱にセットします。時期になると、羽化した成虫は枝を伝って鉢の隙間から出て、枝に上って羽を伸ばします。羽化は、まずオスから始まり、その後メスに続きます。



成虫羽化の準備

羽化したオス成虫は、百元ショップで売られている洗濯用のネット（丸い針金枠と底に植木鉢用の皿を入れて円筒状に成形）に取り込んで、餌（ポカリスウェットを薄めたものなど）を与え、直射日光が当たらない風通しのよい場所に吊しておきます。

2. 交配と産卵

メスが羽化したすと、交配作業を行います。オス2匹とメス1匹を前述の洗濯ネットに入れます。そうするとみのどちらかが交尾、交尾しなかったオスは回収します。交尾ペアは数時間すると、自然にみ♀が離れます。交尾後、メスは産卵用に回収、オスはその後の交配には使わないようにしています。

産卵は、直植えや鉢植えのクララの花穂を数本まとめ、穂先の部分をネットに取り込んで、交尾済みメスを入れ産卵させます。クララの花穂先とネットの天井とは、5cmくらい離れているのがいいようです。

産卵は翌日か2日後に始まり、1週間ほど、100卵くらい産み続けます。一つの花穂にたくさん産卵させないよう1日産卵させたら次の花穂に移すようにします。集中して産卵させると、ふ化した幼虫が共食いをしてしまう恐れがあります。



ネットが吊された丸山さん宅の庭
オオルリシジミ交配・産卵作業中です

3. 幼虫飼育

産卵から1週間で幼虫がふ化します。1齢幼虫は蕾みの中に潜み、外から花穂を見てもわかりませんが、2～3齢幼虫に育つ確認できるようになります。2～3齢幼虫は移動しながら蕾を食し、一度かじった蕾はもう食べないで次へ移動します。移動先に幼虫がいれば、餌と間違えるのか、先の幼虫がかじられ死んでしまうことがあります。

飼育の基本は屋外飼育です。日長が自然（短日）でないと蛹は越冬せず、年内に2化成長が羽化してしまいます。屋内飼育はどうしても夜に照明をつけるので、注意が必要です。

4. 蛹化と蛹の保管

ふ化してから3週間くらい経つ頃、終齢幼虫は緑からピンク色に変わり、蛹化の準備をします。蛹化場所として、植木鉢に赤玉土を入れ、ミズゴケを敷きその上にクララの茎を置きます。鉢の上に、端に穴を開けた皿を乗せ、そこで終齢幼虫に餌を与えてまとめ飼いし、その上から寒冷紗をかぶせます。蛹化が近くなると幼虫は穴から下の鉢に移動しミズゴケや土の隙間に潜り込んで蛹になります。

蛹の保管は、蜂に寄生されることがあり、鉢に細かい網目の布をかけ、ネズミに食べられないようベニヤ板を乗せます。蛹は夏秋冬春を過ごし、土は湿り気が必要です。軒下や木の下において雨よけをしたうえで半分ほど埋めます。

冬は-10℃くらいになりますが、蛹は大丈夫です。室内での保管は春、早く成虫が羽化してしまうので避けます。

以上ですが、オオルリシジミの飼育に関心をもたれた方、挑戦してみたい方は事務局までお問い合わせください。



終齢幼虫の飼育、蛹化の準備



ミズゴケや土の隙間に潜り込んで蛹化

お知らせ

・オオルリシジミ生息域外保全の放蝶作業

飯山産オオルリシジミの生息域外保全ですが、本年も継続し、戸狩地区で蛹を放飼する作業を行います。作業は例年どおりの場所で赤玉土と蛹が入った小型植木鉢を土中へ埋め込みと看板の設置です。放蝶数は本年も60頭で、10個の鉢に蛹を6ずつ入れ分散させて放します。

昨年の観察結果から以前に放蝶したもののからの自然発生がうかがえる状況ですが、発生を維持して定着を安定化させるため、食草のクララの植栽を周辺の土地所有者や観光協会の方々にも協力いただいて生息域を広げたい考えです。

放したオオルリシジミの羽化は5月下旬から始まると思われませんが、以降、観察を随時行います。

【日時】平成29年5月6日(土) 午前9:00～

【集合場所】飯山市戸狩スキー場 星降るレストラン前(飯山市大字豊田6356-2)

その後、放飼場所に移動して作業を行います(1～2時間程度)。終了後、天候など条件が良ければ、近くに生息するギフチョウの観察調査を行おうかと思えます。参加申し込みは不要です。作業ができる服装でお越しください。

雨天決行です(雨具持参)。

・カヤの搬出作業

昨年、オオルリシジミ生息地で採取したカヤですが、静間地区の荒船山農村公園の炭焼き小屋で保管中です。このカヤを売却先の「小谷屋根」に引き取ってもらうため、搬出作業を行います。当日は「小谷屋根」に来ていただき、カヤを小屋から運び出してトラックに積み込みますが、当地のカヤについて、品質や用途などお話が聞ければと思います。

昨年は50cm束で一つにつき1,800円で売却できましたが、本年も会の収入源として期待できるところですので協力をお願いします。

秋には、今年もカヤ刈りを予定しています。

【日時】平成29年5月13日(土) 午前9:00～

【集合場所】飯山市公民館駐車場(飯山市飯山1436-1)

その後、保管場所に移動して作業を行います(1～2時間程度)。

・オオルリシジミ生息地環境整備と野鳥調査

オオルリシジミ発生前の生息地環境整備として、注意看板・監視カメラの設置、ロープによる保護区設営、歩道の草の刈り払い作業を行います。二日間行いますので、都合のつく日時に参加いただけましたらありがたいです。

また、昨秋に引き続き、当会会員で丸山和麻さんを講師に迎え、オオルリシジミ生息地で見られる春～初夏の野鳥観察調査を行います。夏の渡り鳥が繁殖期を迎え、営巣・子育てにあたる頃ですので種類数など期待できそうです。猛禽類を始め、森林に囲まれた草原で特徴的なものを確認・記録できればと思います。野鳥調査は観察会も兼ね、今後も定期的に行っていく予定です。

【日時】 5月27日(土)、28日(日)

午前9:00～15:00頃(終わりの時間は参加人員・作業の進行によります・・・)

※野鳥調査は二日目、28日の午後に行います。集合時間は13時(飯山市公民館)とします。双眼鏡やカメラなど観察道具を持参してください。

※雨天の場合は中止としますが、実施不明な場合は前日の夕方、当会事務局(飯山市ふるさと館)TEL:0269-67-2030へ問い合わせください。

【集合場所】飯山市公民館駐車場としますが、直接生息地に向かわれても結構です。

作業のできる服装でお越しください。

・「第6回・オオルリシジミ親子観察会」の開催

本年も放蝶地と現生息地で「オオルリシジミ親子観察会」を行います。

【日時・場所】 6月4日（日）午前8:00～12:00 飯山市戸狩地区の放蝶地
6月18日（日）午前8:30～12:00 飯山市内の生息地

【集合場所】 飯山市公民館（飯山市飯山1436-1）

【日程など】 6月4日は8:00から受付、8:30にバスで開会場所（戸狩スキー場「望の湯駐車場」）に移動、9:00に開会し、徒歩で観察場所に向かいます。直接、開会場所に集合されても結構です。

6月18日は8:30から受付、9:00開会。9:20頃にバスで生息地へ移動します。参加者にはオオルリシジミの観察とモニタリング調査（目視数をカウント）を実施していただきます。

【申込み】 いずれかの参加希望日を、飯山市ふるさと館（当会事務局・TEL：0269-67-2030）へ開催日一週間前までにお伝えください。

【その他】 山歩きに適した服装でお越しください。小雨決行です。中止すべきような悪天候が予想される場合は、前日夕方までに連絡します。

活動報告など

・「定期総会」と「オオルリシジミ継代飼育講習会」の開催

3月11日、飯山市公民館で当会の「定期総会」が開催され、2016年度事業実績の承認と2017年度事業計画が承認されました。従来からの活動の継続の他、鳥類などの生物調査や飯山駅観光交流センターへのパネル展示なども行っていく予定です。総会後は、冒頭にもありました「オオルリシジミ飼育講習会」、丸山さんには今後も飼育指導に来ていただけたらとのことです。

・オオルリシジミ生息地での野焼き効果の検証

オオルリシジミ生息地の草原環境保全を目的として、試験的野焼きの実施を検討しました。3月17日にスノーモビルを使って野焼き予定箇所に消雪剤を散布、周囲に残雪のある状態で、野焼きを行う予定でした。

右の写真は4月14日の状況、消防署の了解も取れ、翌週、野焼きできるかというところでしたが、その後降雨が続いてしまい、全面的に雪が消え、残念ながら野焼きは断念せざるを得ない状況になりました。

消雪剤の効果は確認できましたので、次年度以降、タイミングを見計らって実施したいと思います。



消雪剤散布箇所の融雪状況

編集後記

「飯山市ふるさと館」の当会事務局担当が人事異動で4月から小澤央くんから宮澤崇士さんに交代しました。小澤くん、お疲れさまでした。宮澤さんは古文書を専門とする学芸員さんのこと、よろしくお願ひします。事務局の福本ですが、「昆虫と自然」5月号（ニューサイエンス社発行の専門誌）に飯山でのオオルリシジミ保全の取り組みを紹介させていただきました。

カヤの活用は注目されているようですので、さらに取り組みを発展させたいところです・・・。

発行者：北信濃の里山を保全活用する会 会長 井田秀行

事務局：〒389-2253 飯山市大字飯山1434-1

飯山市ふるさと館内

TEL/FAX：0269-67-2030

E-mail：furusato@city.iiyama.nagano.jp

編集者・事務局長：福本匡志